

謹賀新年



新年明けましておめでとうございます。

先ず、昨年 12 月 23 日の上信越、山形での豪雪では、気象庁より命に関わる警報も発せられ、鉄道を含む交通機関に大きな障害を発生させました。組合員、ご家族の皆様には大きな被災が無かったことに安堵しながらも、豪雪災害の中においても鉄道の「安全・安定輸送の確保」に向けた組合員ならびにすべての J R 労働者の奮闘に敬意を表します。

私たち東日本ユニオンは、労働運動の一元化を目指し、結成から 9 周年を迎えました。そして、昨年 10 月 15 日、組織の展望を切り開くべく旧盛岡地本と旧仙台地本の組織を統一し、新たに東北地方本部としてスタートを切りました。これは、東日本ユニオンとして、両地方本部が積み重ねてきた歴史を尊重しながらも、今ある現状と課題を受け入れ、組織の展望を見据えた大きな決断でありました。その議論の中には、盛岡や仙台の地で奮闘してきた組合員一人ひとりの「想い」や「声」が生きている組織統一であることを全体で確認したいと思えます。

昨年は「3 年ぶり」という言葉が目立ちました。コロナとの共存の中で自粛から「感染防止をベースに経済を回す」「各種イベントや移動の制約が解除される」など、人や物流の動きが戻りつつあり、J R 東日本も第 2 四半期決算において黒字を計上することが出来ました。これはコロナ禍や物価高により、私たち J R 東日本で働く労働者の負担が増大している中で奮闘してきたことに他なりません。そのような中で、私たち東北地方本部として最初の取り組みとなった 2022 年度年末手当の闘いは、J R 東日本で働く労働者の声を支えに 3.7 ヶ月要求を掲げ、期末手当は年間最低 6.0 ヶ月以上を「J R 東日本のスタンダード」とするべく取り組み、本部交渉を支えてきました。会社回答は私たちの要求とはかけ離れたものとなりましたが、その取り組みの中で私たち東日本ユニオンが要求実現のために呼びかけた社員の声や特に交渉に参加できない組合未加入社員の多くの声は、労働組合の存在意義を感じると共に私たちの支えとなり、要求実現に向けた大きな力となりました。

組織は人と人とのつながりで成り立っています。組合員とエルダー組合員、更に言えば本部や地方本部、大小の組織の中で人と人がつながり、加入している意義を共有し、成り立っていると言えます。その意義を基盤にし、東北地方本部の組合員が「東日本ユニオンに加入して良かった」「この組合で最後まで頑張りたい」という魅力ある組織や運動をつくっていききたいと思えます。

東北地方本部で申し入れを行った申第 1 号は、グループ会社で働くエルダー組合員、パート社員の声が要求となっています。小さな一歩ではありますが、グループ会社の「労働環境の改善」に挑戦したいと思えます。そのためには現職、エルダーどちらか一方を支えるだけでなく、東北地方本部に結集する全組合員で取り組みをつくりだしていかなくてはなりません。

労働組合として職場から労働条件、労働環境の維持向上を目指すと共に、来る 2023 春闘では全組合員が力を合わせて「要求の実現」と「組織の拡大」を目指して闘っていこう！

組合員、ご家族の皆様には幸多き一年となることをご祈念し、東北地方本部を代表し新年の挨拶といたします。

2023 年元旦

J R 東日本労働組合
東 北 地 方 本 部
執行委員長 佐藤光雄